

避難訓練でのお話（令和4年6月15日）

校長先生から、大事なお話をします。

自分の命は自分で守ります。命がなくなると何もできません。
そして自分の命があればいずれ、人の命も助けることができるかもしれません。

そのために今日は江南北小の全員で避難訓練を行いました。

訓練とは、本当の時はこうだろうと考えて行う練習です。
人は、練習をすると上手になります。
字も計算も音読もそうです。ですから練習は大切です。

でもあと一つ大事なものは、「真剣に」行うことです。
真剣に行わなければ、練習になりません。
間違った乱暴な字をいくら書いても練習にはなりませんからね。

東日本大震災が起こった今から11年前、
校長先生はある小学校の4年生の担任をしていました。
とても大きな地震で、天井からつるされたテレビがぶらぶら揺れ、
クラスのみんなが潜った机は大きな揺れで動いて教室の真ん中に集まってしまいました。
放送に耳を澄ませ、指示通りに並び、3階にある教室から避難をしましたが、
階段を下りて非難する途中、
隣のクラスの先生が階段を駆け上がってくるのに出くわしました。

不思議に思っていました。後で聞くと、
その先生は、ちょうどお休み時間だったので、
お手洗いに行っていて、隣のクラスの教室に先生はいなかったということです。
それなのに、隣のクラスの子供たちは、
まるで先生がいる時と変わらず、
机の下にもぐり、放送をよく聞き、
その指示通りに並んで避難をすることができました。

これこそが訓練の成果です。
いつも頼りになる大人やお兄さんお姉さんがいるとは限りません。

もしもの時がないことが一番なのですが、
地震の多い日本、海に囲まれた日本、
近くを大きな川が流れるこの地区、竜巻に襲われたことのあるこの地区で生きていくと
きに、何らかの災害や事故に巻き込まれることは簡単に想像できます。
今日はそのときのための訓練でした。

皆さん、今日の訓練のことを心に留めてください。

「自分の命は自分で守る」
1年生も6年生もすべての皆さんが。

これで校長先生のお話はおしまいです。